

エヌエフ基金

研究開発奨励賞 優秀賞発表・表彰式

3年ぶりのリアル開催

エヌエフホールディングスが科学技術の振興と未来を担う人材育成に寄与すべく、研究開発へ広く支援することを目的に設立している「エヌエフ基金」は、11月25日に東京都内の学士会館で「第11回エヌエフ基金研究開発奨励賞」の研究発表会と表彰式を行った。

審査対象は「環境・エネルギー」「先端計測」「新価値創成」の3分野。「未経験の宇宙天気災害時における日本の送電網のリスク予測モデル開発（名古屋大学、中村紗都子氏）」「アト秒時間幅の超短電子ビームの発生と観測」（理化学研究所、森本裕也氏）、「アップリサイクルに基づいた金属サステイナブルシステムの構築」（東北大学、盧鑫氏）と、各分野から1人ずつ優秀賞が選出された。

3年ぶりにリアルでの開催となり、研究内容に関する質疑応答や意見交換など、研究者同士が交流できる場が設けられた。参加者の1人は「いい刺激になった。明日と言わず今日から、開発に向けて取り組みたい」と意気込みを語った。

同基金代表理事で東京大学の北森俊行名誉教授は、「理論化された研究成果は、後に続く後輩にも役立つ。研究開発のさらなる発展について考えつつ、研いってほしい」と研究者個人としては一生期待を込めた。



2022年度の研究発表会・表彰式